

議 事 録

会議名称	令和元年度 第1回座間市子ども・子育て会議
日時	令和元年6月28日（金） 14時00分～16時00分
場所	座間市役所5階 5-1会議室
出席委員	大下聖治、小澤ゆり、金子智実、小島良之、作佐部慶子、早苗真由美、椎野一子、長本享一、野島美里、飛田昭、宮下美江子、柳瀬暁美、若井千鶴
事務局	子ども未来部長、子ども政策課、子ども育成課、保育課、青少年課、健康づくり課、株式会社ぎょうせい
傍聴者	1名
次第	<p>○委嘱式</p> <p>1 委嘱状交付</p> <p>○会議</p> <p>1 開会</p> <p>2 諮問</p> <p>3 議題</p> <p>（1）子ども・子育て支援事業計画の事業実績報告</p> <p>①平成30年度子どものための教育・保育事業の利用実績について</p> <p>②平成30年度地域子ども・子育て支援事業の実績報告について</p> <p>③次世代育成支援（子育て支援）行動計画の取り組み状況及び事業実績について</p> <p>④放課後子ども総合プランの報告について</p> <p>（2）第2期子ども・子育て支援事業計画</p> <p>①ニーズ調査結果報告書について</p> <p>②第2期座間市子ども・子育て支援事業計画策定について</p> <p>（3）その他</p> <p>4 閉会</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1「平成30年度子どものための教育・保育事業」実績報告書 ・資料2「平成30年度地域子ども・子育て支援事業」実績報告書 ・資料3次世代育成支援（子育て支援）行動計画の取り組み状況及び事業実績書 ・資料4「放課後子ども総合プラン」実績報告書 ・資料5各事業の「量の見込み」の推計方法等について ・資料6量の見込みと確保方策について ・座間市の子ども・子育てに関する調査結果報告書
<p>（会議経過）</p> <p>子ども子育て会議委員14名中13名全員が出席し、座間市子ども・子育て会議規則第5条第2項により会議が成立。</p> <p>1「開会」</p> <p>子ども未来部長より挨拶</p>	

2 「諮問」

市長の代理で子ども未来部長から座間市子ども・子育て会議大下会長へ諮問

3 「議題」

資料を確認後、座間市子ども・子育て会議規則第5条第1項に基づき大下会長が議事を進行
(傍聴者入場)

～議題（１）子ども・子育て支援事業計画の事業実績報告

①平成30年度子どものための教育・保育事業の利用実績について～

○事務局（保育課）

※【資料1】平成30年度子どものための教育・保育事業実績報告書について説明した。

○委員

平成31年度については、特に説明はなかったと思うのですが、例えば3号認定の1歳から2歳、量の見込みが539名、確保量551名というのは、前年度に比べると、量の見込みが少なかったのですけれども、これはあくまで4月1日現在であって、今後、また増える可能性があるのでしょうか。

○事務局（保育課）

539名と551名に関しては、量の見込みの算定に関して、国の一定の方式に基づいて算出したものでございまして、平成30年度も見てとれるように、策定時の計画数の546名よりも、実際の申し込み者数が675名となりますので、この場には数値はないのですけれども、令和元年度も既に4月1日を過ぎていきますので、状況に関しては、確認すればわかるのですが、計画値よりも多い入所申し込みがある状況でございます。

○委員

まだ集計される段階ではないということですか。

○事務局（保育課）

失礼しました。集計はとれております。平成31年度の申し込み者数の実績なのですが、保育園で特化すると、0歳児が156名、1～2歳児が706名、3歳児以上が992名、合計で1,854名のお申し込みがありました。

○委員

申し込みに対しての確保量は、今の時点ではいかがなのでしょう。

○事務局（保育課）

全体的な流れでいうと、3歳児に関しては、大分落ちついてきている状態です。0歳児に関しても、1～2歳児と比べると、申し込みはそれほどないのです。1～2歳児の育休明けの申し込みが非常に多いという形になっています。

ただ、今後の話になるのですが、10月から幼児教育・保育の無償化が施行されますので、それに

よって幼稚園の1号認定、あと、2号認定の保育園の申請者数も増えてくるのではないかという予想は、事務局としてはしている状況でございます。

～議題（1）②平成30年度地域子ども・子育て支援事業の実績報告について～

○事務局（子ども政策課、子ども育成課、保育課、健康づくり課）

※【資料2】「平成30年度地域子ども・子育て支援事業」実績報告書について、説明した。

○委員

ナンバー3の子育て援助活動支援事業で、ファミリー・サポート・センター事業とあって、我が校でもここで助けていただいている御家庭があるのですが、例えば小学校学童には、どんなサポートがあるのか、教えていただければと思います。

○事務局（子ども育成課）

ファミリー・サポート・センター事業での小学生を対象とする内容については、例えば学童児童ホームが終わった後のお迎えとか、預かり、学校から帰宅するときのサポートです。あと、習い事などに行くときの送迎、このような内容で御利用いただいている方がいます。

○委員

保育課にお聞きしたいのですが、ナンバー8の病児保育について、平成29年度の実績値は109名でしたが、平成30年度は66名になっていますけれども、これはどうして減ったのかと分析されていますか。

○事務局（保育課）

病気は、年度によって流行りとかがあると思うので、恐らくそこで病児というのは、一定ではなくて、年によって変わるものなのかという形では、事務局としては予想をしている状況でございます。

○委員

病児保育事業は今でもすずらんさん一カ所ですか。

○事務所（保育課）

まず認可保育園としては、1カ所でございます。

○委員

認可保育園は1カ所病児保育をされているのですか。

○事務局（保育課）

病後児です。すずらんさんです。

もう一カ所、4月1日に認可外保育園になるのですが、企業主導型のにじのはし保育園というところがありまして、主に病児の実施をされているようです。看護師が常駐しておりまして、4月1日から、新たに認可外ではございますが、病児保育を実施しております。

○委員

話はそれますが、金額等は書いてありますか。

○事務局（保育課）

金額は、こちらの料金です。病児保育は、1時間2,000円となっているのですが、これは1枚しかないのですけれども、新たに、にじのはし保育園のパンフレットを最近いただきまして、これを見ると、4時間以内で2,000円、4時間以上で2,000円プラス1,500円という形になっております。内容が変わったのかどうかまでは、直接は確認していないのですけれども、こちらは後日になりますが、確認をさせていただいて、委員の皆様に御報告をさせていただけたらと思っております。

○委員

それは6月15日にオープンしたというパンフレットなのです。うちのあゆみ保育園はたまたま目の前で、6月15日にオープンしたので、うちの園児も預けることができるので、説明会があるのだということでした。

○事務局（保育課）

6月15日ですか。失礼しました。

○委員

保育園自体は4月にオープンされているのですけれども、病児保育は6月になります。

○事務局（保育課）

大変失礼しました。ありがとうございます。

○委員

保育園自体は4月からオープンしていて、病児の預かる施設などが全部整ったので、6月15日からまずプレーオフで、皆さんには出すけれども、最初、お試して、あゆみさん、いそのさん、ゆめっこ保育園さんのところへパンフレットを配って、その後、ほかの保育園にも回ればという話でした。直接園長先生が来て、お話しをしてくださったのです。

○事務局（保育課）

ありがとうございます。

○委員

今、2園あるということで、資料の平成30年4月現在66名の実績の話とは別ですか。先ほどにじのはし保育園が開園されて、現在は2園ということですか。

○事務局（保育課）

ただ、この実績報告は、認可を対象にした実績になってきますので、こちらには認可外は含まれな

い数値になってきます。今後、ここをどうするのか。

話が戻ってきってしまうのですが、令和元年度、こちらの事業計画上、定員を220名ふやすという形になっていまして、実際、令和元年度の数が見えてきて、合計で130を予定しています。要は90名足りません。220名引く130名で90名が足りないという形になるのですが、ここで今まで企業主導型を利用している人は、待機児童に含めるという定義だったものは、4月1日から企業主導型に入っていれば、待機児童を含めなくていいということで、国が定義を変更いたしました。

企業主導型は、市内で5園ありまして、5園分の定員数は、延べで104名でございます。なので、企業主導型を含めると、要は先ほど言った130名の定員増と、104名の企業主導型で、234名の確保数があるので、企業主導型を含めれば、220名を超える形になってきます。

今後、こちらの企業主導型を確保数に含めるか、含めないか、これに関しては、国の待機児童の定義との整合を図って、第2期の子ども・子育て支援事業計画の確保数に含めるかどうかに関して、検討していきたいと思っている状況でございます。

○委員

ありがとうございます。

66名の実績値は、前年度より減っておりますが、例えば皆さんにまだ周知されていないとか、もしくは場所が1カ所だけなので、預けたいけれども、預けづらい方はいらっしゃると思うのです。私の周りも病児保育、もしくは病後児保育をやっていることを知らない人が多いのです。乳幼児さんのお子さんをお持ちの御家庭なので、なので、もう少し周知とか、にじのはし保育園など、いくつかの場所に分けて、もう少し預けやすくなるということがありますので、決してこの人数が少ないから要らないというわけではなく、そのような事情もあるということをお考えいただけたらと思います。

○事務局（保育課）

その意見を受けとめさせていただきまして、ちなみに、実際、子ども・子育て支援事業計画上、病児保育を1カ所整備しますという形で挙げさせていただいているのですが、残念ながら、実現には恐らくは至らない状況でございます、この病児保育とは別に、第2期の子ども・子育て支援事業計画にも、引き続き、病児保育を整備していく旨を計画していこうと思っております。

○委員

前回の会か何かで、一番望ましいのは、小児科ですとか、病院に併設されるとおっしゃっていたのが、すごく印象的だったのですが、現段階では、まだ手が挙がらないということですか。

○事務局（保育課）

見通しが立っていないという状況でございます。

○委員

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

～議題（1）③次世代育成支援（子育て支援）行動計画の取り組み状況及び事業実績～

○事務局（子ども政策課、子ども育成課、保育課、青少年課、健康づくり課）

※【資料3】次世代育成支援行動計画の取り組み状況及び実績報告書について説明した。

○委員

健康づくり課への質問ですが、資料のナンバー14、ナンバー15の親子相談と乳幼児フォロー教室についてですが、乳幼児はともかく、親子相談のお子さんの対象年齢を教えてくださいと、自発的にお母さま、もしくは保護者の方がいらっしゃっているケースなのか、それとも、子育て支援センターや、保育園、育児相談など、どこかの機関から御紹介をいただいているのか、その辺を伺いたいと思います。

○事務局（健康づくり課）

健康づくり課の事業ですが、親子相談の対象者は、3歳半健診までのお子様と、3歳半以上でも未就園のお子様を対象になります。幼稚園などに就園された場合は、今度は障がい福祉課が担当になりますので、それまでのお子さんが対象です。

把握の経路ですが、いろいろありまして、健診や育児相談、電話相談、あとは、ネウボラがありますので、来所相談などで相談に来ていただいたお子さんたちや保護者から把握しています。

また、関係機関からも御相談いただくことがあるのですが、まず保護者の方に健康づくり課でこんな相談を行っているの、相談に行ってみてはどうですかというお勧めをさせていただいて、必要だと思われた保護者は、保護者の方から健康づくり課に予約をさせていただいて、お申し込みをいただいています。

その下の乳幼児フォロー事業ですが、健診のフォロー事業で行っておりますので、2つ行っています。わくわく教室は、1歳6カ月健診のフォロー教室で、大体2歳代が多いです。2歳から2歳7カ月ぐらいのお子さんです。

すくすく教室は、3歳6カ月健診のフォロー教室になっていますので、こちらの年齢層が幅広いのですが、2歳8カ月から就園前までということで、就園の年齢が皆さんでちょっと違いますので、就園されたら御卒業という形になっております。

こちらまず親子相談を受けていただいて、臨床心理士と保健師で面接をさせていただいて、この教室が必要と判断された場合に、お母さんたちに御案内させていただいております。障がい福祉課でも同じようなフォロー教室を持っておりますので、障がい福祉課の教室が適しているのか、健康づくり課の教室が適しているのか、臨床心理士が簡単な検査をして判断をしています。

お子さん自体に発達の特徴があり、お子さんを中心に見ていったほうがいいというケースは、障がい福祉課の教室に勧めています。親子関係とか、これからすぐ伸びていくのではないかなと思われるような方は、健康づくり課のフォロー教室を利用させていただいて、わくわく教室はクールが決まっておりますので、クールで卒業して、卒業時も障がい福祉課の臨床心理士と相談して、処遇を決定したりしております。

○委員

例えばですけれども、心配になったということで、自発的に来られる方は問題ないですね。ただ、中には、うちの子はそうではないと思っている親御さんがいらっしゃるのです。周りの方は、この子はグレーではないかと思いながらも、親御さんが頑として認めないケースもあると思うのです。そう

いったお子さんは、どうやってすくい上げたらよろしいのですか。

○事務局（健康づくり課）

座間市医師会とも相談させていただくケースがありますが、お母さんは気がつかないのか、それとも認めたくない時期なのか、さまざまだと思います。健診のところでも、再度、保健師が相談を受けてみないかということをお勧めして、そこで拒否されるケースもあるのですが、そういったお子さんは、幼稚園などに行って、集団行動をとらなければいけないときに、困ることが出てくるので、そのときに、また相談に来ていただくような形にもなりますので、引き続き、地区の担当が関わりながら、時期を見計らって、何度も相談を勧めたりして、良い時期に相談へつなげるような努力をしています。

○委員

例えばネウボラや、育児相談、栄養相談などがありますが、それ以外にも、子育て支援センターがありますし、保育園とか、幼稚園など、そういったところからもSOSといったらおかしいのですけれども、このお母さんが心配ということで、連携をとられる予定はありませんか。

○事務局（健康づくり課）

保育課とは連携をとらせていただいていますし、子育て支援センターからも、気になるお母さんということで、御連絡はいただけるようになっています。ただ、健診で様子を見ていただけないかというお話しも時々いただくのですが、まずはお母さんの相談のニーズがあるかどうかが大事になってきますので、私たちも注意してはおりますが、お母さんに相談できる場所はたくさんあるとお伝えいただいて、なるべくつなぎたいと思っています。

○委員

今のことで、わくわく教室が終わって、声をかけられないとそこに上がれないという感じらしいのですけれども、そうすると、大丈夫だと思うから、わくわくで終わり、卒業となったりするわけですね。うちの幼稚園に来ていたりするのですけれども、今、6月になって、随分落ちついてきて平気だと思うのですが、ちょっと心配だと思って、すくすくに上がったりするわけです。今、未就園ですくすくに上がられた方が来ているのですけれども、言葉がちょっとという感じなのですが、大丈夫と思ったら、幼稚園はどうですかという感じになるわけですね。

○事務局（健康づくり課）

そうです。わくわく教室に常に臨床心理士がおりますので、クールは短いですが、その中で臨床心理士が判断して、その後、処遇会議を行っていて、うちの常勤の障がい福祉課にいる臨床心理士とも相談をして、処遇を決めて、卒業がいいのか、上の教室へ行ったほうがいいのか、それとも、障がい福祉課の教室に行ったほうがいいのかというのは、判断させていただいております。

○委員

障がい福祉課へ行くと、サニーキッズから幼稚園どうですかみたいな感じで、未就園に来られたりするのですが、そんな感じで連携しているという感じですね。

基本的なことをお聞きしたいのですけれども、昔は3歳健診だったではないですか。なぜ3歳半健診になったのですか。

○事務局（健康づくり課）

まだ県内の中でも3歳児健診をやっている市町村はありまして、横浜とか、川崎とか、大きな市は3歳児健診なのですが、3歳児健診だと、できない項目がたくさんあって、その後、フォローをしていくのに、かなりフォローの数が多いということと、今の時期だと、3歳で排せつが確立できていないお子さんたちがかなりいるので、そのときに、おしっこの検査をするのがかなり困難になるので、当市では、3歳6カ月で検査をさせていただいております。

○委員

だからといって、3歳半健診をパスしてきても、園で集団生活をしていて、えっという子がいたりするのです。そこは子ども同士で遊んだりしている様子を見るというのはないのですか。親子で検査するもので終わりなのですか。

○事務局（健康づくり課）

そうです。

○委員

いろいろ難しいと思います。ありがとうございました。

○委員

初めてなので、どこに質問したらいいかわからないのですけれども、今、学校現場で見えて、困り感があるところで、1つは、外国から来た保護者の方、お子さんたちなのです。こういういろんな支援があるということがわかっていなくて、わかったときに、手続をどうやってやればいいのか。そういう資料を見ても読めない。学校教育課とかにいろいろ助けていただきながら、やっていっているのですけれども、そういう受け皿は、市役所の中にあるのか、あるいはそれぞれの課で持っていってしゃるのかというところが、まず1つ目です。

2つ目は、今、お子さんの発達障がい的なところの話が出て、そこは同じ悩みを抱えていらっしゃると思いながらなのですけれども、子どもの発達障がいはもちろんですが、保護者の方が精神的だったり、心の面を持っていらっしゃる、大体的場合、子どもが登校できなくなってきたりするのです。なので、そういったときの親までも含んだ支援は、学校に入った場合、どことどうつながっていくのか、自分が一生懸命見ていたのですが、よくわからなくて、こんなところで保護者の精神的なところを持った人の支援がずっとつながっていくのですということがあったら、教えていただきたいところでしょうか。どこに聞いたらいいかわからないので、お願いします。

○事務局（健康づくり課）

妊娠届出書を出していただいたときに、外国籍の方は、ほぼ地区の担当がついて、健診などをフォローをしています。ただ、学校に行った後とか、保育園とか、幼稚園に入られた後のところまでは、なかなか続いていかない、そこまではうちも通訳を持っておりますので、通訳を使って、健診の場面などはフォローさせていただいておりますが、就学してしまったりすると、支援が切れてしまうと私たちも感じているところです。なので、幼稚園に行った後の問題をいろんな課と話し合いこうと考えています。

あと、お母さんのメンタルの問題も、就学前までは、当課でお母さんの相談も乗っていますが、就学してしまったりした後の相談先は、手帳を持っていたり、医療につながっているお母さんたちは、障がい福祉課と連携したりはできるのですが、時々病院に行ったり、通院を自己中断しているようなお母さんたちは、フォロー先がなかったりとかして、私たちもそこは問題だと思っていて、ネウボラに突然電話がかかってくることもあるので、相談内容を聞いて、適した相談先につなげたりなどもしています。

○委員

ちょっと違うのかもしれないのですが、現在、子ども政策課からの依頼などで、養育支援、学校のお子さんを見ているという実例があるのです。親御さんが内面的な障がいをいろいろとお持ちで、そのお子さんということなので、現在、置いているという件数が1件だけあるのです。そういう感じですね。子ども政策課ですね。違いますか。

○事務局（子ども政策課）

養育支援でかかわってはいますけれども、お母様に精神的な症状があったとしても、我々は虐待でかかわっているので、要支援・要保護というところで、虐待があり得るかといったら、そうではないのですけれども、そういった家庭のことについても、養育訪問事業で入っていくことはあります。それは要保護対策協議会の中でもまれてという形になるので、広く一般的にというものではないのですけれども、サービスとしては、家事・育児の支援サービスになります。

○委員

不安というか、わからないようなことがあったときに、子ども政策課に相談に行くというのは、結構いいと思います。あちらにも、こちらにも紹介をしていただけるので、わからなくても、わかっても何でもいいので、つなげるということは、すごく必要だと思います。特に学校は教育機関だから、子どもたちみんなに来てもらいたいです。行けないという状況は、親の立場としても、指導者としても、おかしいのではないかなと思うので、まず窓口があったら、そこに行って相談をしてみるというのは、すごく必要だと思います。

全体的にいつも感じるのは、市の横の連携をしっかりとっていただきたいというのは、すごく感じています。自分たちの課の中だけとしないで、横との連携、あれ、聞いていなかったのかということもちょこちょこあるので、できれば横のつながりをしっかりと、回していただきたいと思います。

○委員

関連で言いますと、システムとして、それが確立されているかどうかというのは、私もわかりません。要保護対策の話が出ましたけれども、これはかなり顕著な例で、顕著な例でいえば、市のほうも横断的なシステムができております。

今、問題になった、委員から出ていた内容ですが、1点目の外国籍のところ、どうなっているかというと、未就園、保育園とか、幼稚園に通っていない。それはどこでフォローしているかというと、意外と一時保育でフォローしているのです。システムとしてというのは、統計をとっているわけではないからわかりませんが、自分のところの例から言いますと、結構外国人が来て、宗教で鶏肉を食べないとか、いろんな問題がありまして、苦労するのですが、そういう問題が1つあります。

それから、同じような問題で、一時保育を受けているのは、お母さんの心がちょっとという感じで、

例えば市との連携をとってやっているかどうかは、私たちはわかりませんが、本人申告で、そのために子どもを預けたいという例は結構あります。私たちがそれを市に届ける義務もないし、また、個人情報の問題もありますので、つなげてはいませんが、実質の量は多いです。

もう一つは、連携するとしたら、子育て支援センターが市内に3つにあります。私のところは座間子どもの家といいますけれども、ほかにも市内に散らばっていくつかありまして、その支援センターから各施設の一時保育へ、こういうケースだから、預かってくれないか、こういうことは実績としてはいっぱいあります。ただ、それがシステムとして把握されているかどうかは、わかりません。

先ほど市の連携と言いましたが、市の場合、未然というよりは、起きたことに対する連携はかなりできていると思うのですが、今後どうするか、あるいはそういう不安を抱えているものをどうやって収容するかというところに関しては、今後の課題ではないかと思います。ただ、できていないとまでは言えないと思います。一時保育も各所にありますし、支援センターも3つありますので、実績的にはかなりいっているのではないかと思います。委員の先ほどの不安も含めまして、座間市はある程度のフォローはできているのではないかと思います。ただ、その把握は難しいです。

○委員

外国籍の方について、先ほど対応されているところもあるということだったのですが、未就園・未就学にかかわらず、外国籍のお母様たちは、お手紙が読めないとか、学校の予定がわからない、ちょっとしたことも電話では聞きづらいとか、そういうことがあります。そういったお母様を支援するグループはあります。アクティヴ・ママという団体があるのですが、そちらにひだまりの家というものがあまして、今、月一ないしもう少し増やそうと思っているところです。こちらが対応できるのは、午前中からなのですが、もしそういったお母様がいらっしゃったら、ぜひ御紹介いただきたいと思います。

あとは、お子さんの支援もしておりまして、一緒に遊ぼうですとか、日本語と英語でコミュニケーションしようとか、そういったこともやっておりますので、もし困ったお母様がいらっしゃったら、ぜひアクティヴ・ママのひだまりの家を御紹介いただければと思います。

～議題（１）④放課後子ども総合プランの報告～

○事務局（青少年課）

※【資料４】放課後子ども総合プラン実績報告書について説明した。

○委員

細かいことなのですが、放課後子ども教室の区分で、一体型と連携型があるということなのですが、今、御紹介いただいた7校の内訳を教えてくださいませんか。

○事務局（青少年課）

一体型が4校です。連携型が3校でございます。

一体型が栗原小学校、立野台小学校、ひばりが丘小学校、中原小学校です。連携型が東原小学校、相武台東小学校、旭小学校の3校です。そのように把握をしております。

○委員 ありがとうございます。

定員数などはあるのでしょうか。

教室があってやっていらっしゃるのか、グラウンドを使ったり、体育館を使ったりしているのでしょうか。

○事務局（青少年課）

定員はございません。各小学校におきまして、若干違いますけれども、空いている教室を利用させていただいて、そこでちょっとした学習や、宿題などをやりまして、その後、体育館やグラウンドをお借りしたりして、子どもたちを遊ばせているという感じです。

～議題（２）第２期子ども・子育て支援事業計画の①ニーズ調査結果報告書について～

○事務局（子ども政策課、(株)ぎょうせい）

※【座間市の子ども・子育てに関する調査結果報告書】について説明した。

○委員

今、ポイントとして挙げていただいた中で、76ページのアンケート結果の件数なのですが、医療についての中で、計の下にある医療費補助制度の改善・不満というのが37件で、ほかのページを見ても、割と件数の多いほうに入ります。それに対してなのですけども、例えば医療費補助制度の改善・不満の内容は、今、把握していらっしゃる感じですか。現在はわからないですか。

○事務局（子ども政策課）

医療費補助制度の改善・不満ということで37件ありまして、具体的な意見については、データとしてはあるのですが、今、この現場には持ち合わせていない状況です。

○委員

例えばぱっと思いつくのは、中学3年生まで医療補助が出る、医療証が出るとなっていますが、所得の関係でいただけない方もいらっしゃいます。びっくりしたのは、低学年の方のアンケートの中で、割と所得の高い方が多かった記憶があります。700万から1000万円までが、座間市は割と多いと思った記憶があるのですが、そういった中で、今、医療関係の方がいらっしゃらないので、あれなのですけども、もう少し所得の上限を上げていただくとか、もしくは東京都みたいに、全員無償化にさせていただくことは可能なのでしょうか。できれば、そういうふうになったらいいという意見です。

○事務局（子ども政策課）

医療課の担当がいなくて、私から回答ということになってしまうのですが、私、今、所得制限の関係の資料を持っているので、それを御紹介させてもらおうかと思います。

所得制限の計算方法は、多少複雑なものはあるのですが、大体の所得があって、そこから控除が多少あって、その後、残りの所得の額がいくらかということで、小児医療証が出るか、出ないかが決まってくるのですが、ざっくりというところで、扶養親族が1人であれば570万円、2人であれば608万円、扶養の親族が3人いれば646万円というのが、制限のラインになってきます。

小児医療証の件については、よく市議会で取り上げられたり、いろいろと話題になる部分ではあるのですが、市の方針としては、限られた財源の中で、持続的可能な制度にするために、この状

況で御理解をといるところになるかと思うのですが、本来的に小児医療というテーマは、当たり前のように全国でやられているものであるので、国が一定のルールというか、全国的にこれでやりなさいというのが、本当は欲しいというのが、正直なところだと思います。ばらつきが出てしまっている状況について、国が一本にしてもらうのが一番ということだと思います。

実際に座間市の所得の制限のルールは、厳しいものかどうかというところなのですが、神奈川県内というと、全自治体のうちの15～16、かなり多くのところが同じ条件でやっています。その条件というのは、県の実施要領、県の基準に準じてやっている状況でございますので、座間が厳しいとか、座間が緩いとか、そういうことは特段ないので、一般的というか、県の基準に合わせた状況になると思います。

私からは、ここまでということで、詳しくは担当から御案内させようと思いますので、よろしくお願いします。

○委員

県のどの層が15～16に当てはまるか、皆さんの所得などはわかりませんが、できたらそうになってほしいというのが希望です。

～議題（２）の②第２期座間市子ども・子育て支援事業計画策定について～

○事務局（子ども政策課、(株)ぎょうせい）

※【資料５】 各事業の「量の見込み」の推計方法等について、【資料６】 量の見込みと確保方策を説明した。

○委員

病児・病後児保育事業は、資料５の８ページに出ていて、対象人数のところは１～６年生と書いてあって、資料６の１８ページにもこれが出てきていて、ニーズ調査結果は、病児対応（病児保育）を含めた利用希望を集計していることが要因の１つと考えられますとあるのですが、１年生ぐらいたと、子どもを置いてくるのが心配な御家庭がかなりあるようです。将来的には、先ほど出たような、ああいうところに、１年生のお子さんなどを預けることが可能なのか。今も可能ということで、これは考えているのかということが１つです。

もう一つは、先ほど御説明があった、ピンク色の結果報告書の３ページで、市の課題、包括的な支援ということが書いてあったところです。ちょっと前に戻ってしまって申しわけないのですが、３９ページの（１）の①は未就学のみと書いてあるので、未就学児が対象ということで考えていいのか、確認をさせてください。

○事務局（保育課）

病後児保育なのですが、現状、広野台保育園に隣接するすずらんという施設があるのですが、そちらは小学校１年生の利用は可能です。

３９ページの未就学のみ保育コンシェルジュ部分なのですが、保育コンシェルジュというのは、特定型という保育コンシェルジュでございまして、特定型というのは、どういうことをやる事業かといいますと、待機児童を解消させる、待機児童になった方に対して、いろいろなサービスを御案内した上で、待機児童にならないような形を支援するコンシェルジュになりますので、ここは未就

学のみ利用になってきます。

○委員

意味がわからなかったもので、御質問なのですが、今、私が見ているページは、18ページの病児・病後児保育なのですが、こちらに単位として「人日」と書いてあります。これはこういった単位ですか。これがわからなかったもので、御質問です。

○事務局（保育課）

720のところですか。720の積算根拠なのですが、定員数3人、対象日数は240日を見込んでいまして、240掛ける3で720となっています。

○委員

ごめんなさい。もっと底辺の御質問です。この単位の意味です。例えばグラムはどういう意味とか、そういう意味です。申しわけないです。

○事務局（子ども政策課）

単位のことでよろしいですか。例えば病児・病後児ですけれども、3人掛ける年間240日なので、720人日という単位になります。

○委員

やはりわかりません。例えば人／年だと、1年で何人ということがわかるのですが、これはどう解釈したらいいか、わかりません。これは何ですか。申しわけないです。

○事務局（ぎょうせい）

一般的には見られない単位の形ですので、御意見はもっともかと思います。人だけだと、1年間の中で、誰々さん、誰々さん、実人数、ある人が必ず1年の中で1回は利用している。その方の人数を数えれば、実人数ということで、人なのですが、こちらの場合は、同じ方が何日も利用すれば、それぞれカウントされていきます。それでもわかりにくいのかもかもしれませんが、そういうことです。

○委員

延べ人数みたいなことですね。

○事務局（ぎょうせい）

はい。

○委員

1日に何人という数え方ですか。これは、皆さん、わかっているなら、後で個人的に質問します。

○事務局（ぎょうせい）

この事業自体、1日単位で預かりをするという形の事業の特性だと思いますので、1日当たりということですが、説明が難しいです。例えば2日間にわたって同じ方が2回利用すれば、それで2人日に

なります。

○委員

その場合は、どうなるのですか。

○事務局（ぎょうせい）

2人日になります。

○委員

2日にわたって、同じ方が2回利用すると、2人日ということなのですね。

○事務局（ぎょうせい）

はい。

○委員

出席の委員の方は、皆さん、おわかりになりますか。もしおわかりだったら、後で個人的に伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○会長

いかがですか。捉え方として、わからなかったら、後でお聞きいただければと思います。

～議題（3）その他～

○事務局（子ども政策課）

今回、その他としましては、御審議いただくことを御用意しておりませんの、委員の皆様から、審議すべき事案がございましたら、御提案をいただきたく存じます。

○会長 どうですか。何か提案されることはございますでしょうか。

なければ、全体と通じての御意見や御質問等はございますか。どうぞ。

○委員

全体を通じて、最初に出てきて、いろいろと訳のわからないことを申しわけないのですが、学校現場によると、今、こんなに丁寧に小さいときから子育てにかかわってくださっていたのだと、今回、初めて知って、この子たちが学校に上がってきているのだということがすごくわかりました。

ただ、自分が思ったのは、学校現場のところだと、多分教育委員会だと思うのですが、ここがどうつながっていくのかというところが、自分はまだ見えていないところです。就学の段階で、とても丁寧に聞き取りをしながら、いろんな保育園へ訪問して、指導課の先生が行ってくださって、学校にもとてもよくつないでくださっているのは、重々わかっているのですが、その部分ではなく、例えば家庭的な支援とか、包括的なという言葉があったのですが、そこまでとても丁寧にされていたものが、学校に来ると、学校と親はあるのですが、それ以外の全市として見てといったようなものが、これを見ただけでは薄いと思ったり、あるいは私の知らないところで、ここにいらっしゃる課の方々が、教育委員会と密接につながっていらっしゃるというのが見えない部分で、そこがとても

大切な家庭教育の部分だと思っています。

今、すぐにお答えということではなくて構わないのですけれども、ここで第2期の計画というところで、今日、教えていただいたので、何かそれが見えるようなものが出てきて、そして、家庭でも先ほどお話しがあったみたいに、困るとすぐ子ども政策課に電話して、すごく迷惑をかけているのです。子ども政策課は、虐待事案から何から全部抱えて、すごく丁寧にかかわってくださっていて、本当にありがたいのですが、1つの課にそうやっておんぶにだっこだと、とても大変だろうと感じているところなので、市全体、あるいはやってきたことが、教育委員会にうまくつながっていくような何かがあったらほしい、そういう形を教えていただけるとうれしいと、意見として思いました。

○事務局（子ども政策課）

難しい課題の部分なのかと感じております。学校と教育委員会とこちらの市の部分、問題があると思います。ただ、今、御発言をいただきまして、この計画を作っていく中でも意識していきたいと思っています。現状はそういう御回答になります。

○会長

そのほかに、御意見、御質問はございますでしょうか。

ないようでありましたら、以上をもちまして、本日、予定していた議事は、全て終了いたしました。ここで進行を事務局にお返しいたします。

4 「閉会」